

中野島納涼バザールに参加

川崎市多摩区中野島商店会・・・人口は長井市と同じ、納涼バザールが開催されここに昨年同様「上平山活性化委員会」のメンバーが主となり出展した。活性化委員会というより都市と農村との交流滞在を目標とした「グリーンツーリズム」委員会が農産物を持ち込んだもので、見事に完売して帰宅した。



マンションが立ち並ぶ中野島商店会の広場には、納涼バザールの横断幕、開店11時近くになると続々市民が詰め掛けた。マンションには約650世帯が住む。



長井市の産直の案内看板があちこちに立てられた



出店前には人・人・人・・・

出店者もそれぞれ楽しむ、これがコツか



長井市からは、中野島との交流のきっかけを作った 川村正吾さん、高村仁太郎さん

専業農家でミニトマト栽培している青木雅幸さん、まいたけ栽培に心血を注ぐ今野隆雄さん、それに蒲生光男と川村さんの息子で大学院生正也君とその友達岡本君という陣容である。バザール当日は、グリーツーリズムなど地域間交流の指導者である岩切淳子先生、川崎市議会議員三宅隆介氏、商店会の人たちの暖かい応援を得て、いざいざ・・・。



JA の箱には取れた手のきゅうり



子供も大勢駆けつけ盛り上げていた



長井の名物玉こんにゃく、
多くの子供たちが玉こんにゃくを
もって会場の中にいい香りを・・・



当日は多彩なイベントも、すいか割り・平均台キックボード・輪投げ・飴のつかみ取りなどいろいろ、子供が来るから親も来る。サマーバザールは毎年7月に開催しているとの事。商店会とともに、新多摩川ハイム合同企画、今年は北口商店街も協力移送盛り上がるものとなった。

《中野島商店会の歴史》引用は中野島ホームページより。

創立 昭和 30 年 3 月

事務所 中野島 3 - 14 - 3 電話 044 - 945 - 8033

昭和 30 年 8 名の会員により発足当初は親睦的な会であったが、昭和 37 年 27 名となり、会則を制定、組織事業等の基礎が出来た。稲商連(現多摩商連)への加盟は、翌 38 年 5 月会員数 37 名の時である。同年初の顧客サービス事業として、「奥様ボーナスサービス券」を発行。

昭和 46 年には、会員 69 名となったが、中道通り、中央通り、北口通りの各商店会が相次いで分離独立して行った。昭和 48 年年末大売出し、中元大売出し、49 年街路灯の新設、52 年ニコニコスタンプ、53 年納涼バザール、等消費者サービス事業として定着している。当会は発足以来会員店が広い地域に散在しており、小売業以外の業種も多く商店会の販促活動等が難しい。平成元年駅前に高層住宅が出来、同 3 年 3 月にはサミットアークが開店し地元会員店との競合という問題も生じた。

パブルの崩壊後は、スーパーナガイの撤退等何店かの店舗が廃業したが、それに代わる新しい店舗も出店している。平成 12 年より、従来の納涼バザールに代えて新多摩川ハイムのフリーマーケットと合同でサマーバザールを行うようになった。

各部の活動も以下のように行われている。
売出し事業部(中元売出し、歳末売出し、サマーバザール)
厚生部(新年会、忘年会、婦人部新年会、旅行会)
体育部(ゴルフコンペ、3 商店会合同キックベースボール大会)
活性化事業部(駅前花壇の整備、七夕飾り、
クリスマス飾り、祭礼協力)
交通街灯部(街灯見回り点検)

平成 13 年には、商店会のホームページを立ち上げた。



打ち上げも盛大に、今年は伊豆下田市からも産直参加、長井市は完売。
下田市は始めてもあったか、今ひとつ盛り上がりが足りない感じだった



中野島商店会会長
田村精一さん、昨年
長井を訪れた



落語家の桂米太郎師匠
今年もイベントに参加、
3 次会まで元気だ